



観賞用 トウガラシ

タキイ研究農場印南試験地

こやま しゆん
小山 瞬

「オニキスマジックオレンジ」

農林水産省品種登録出願中(品種名:TF994)

学名 *Capsicum annuum*、和名 トウガラシは熱帯アメリカ原産とされるナス科トウガラシ属の多年草または低木です(日本や温帯の地域では一年草)。ヨーロッパの新世界発見を契機に世界中に伝播し、地域の食文化に根付いて日本における「万願寺とうがらし」や「伏見とうがらし」のような独自の特産品種が生み出されるに至りました。今日では世界中で育種が行われ、品種数はおおよそ3000種ともいわれます。ピーマンやパプリカもトウガラシと同一の植物種から品種改良されてきた野菜です。人間の生活に欠かせない作物のひとつであるトウガラシは、香辛料や野菜としての食味や成分に大きな価値がありますが、果実の外観もとても魅力的です。艶やかでカラフル、形状や大きさも様々なバリエーションがあり、見た目にも非常に美しいものです。特に観賞用に改良された品種群が存在し、切り花用の高性種、花壇や鉢物に使用される矮性種があります。それら観賞用トウガラシは果実の色・形だけではなく草姿や葉の色も観賞に適したものに改良されてきました。今回はその観賞用トウガラシの、タキイ最新品種「オニキスマジックオレンジ」をご紹介します。

品種特性

印象深い漆黒の葉に、色変化が楽しめるかわいらしい丸い果実

濃厚な黒い葉が大きな特長です。初めてこの品種を目にする方は、一般的な草花のイメージとはややかけ離れた“真っ黒”な色に驚かれるかもしれません。主たる観賞部位である果実も、食用の細長い、いわゆるトウガラシの形とは異なり、かわいらしい丸い小さな果実を房状につけます。その色はこれまた「鷹の爪」に代表されるトウガラシらしい赤色ではなく、鮮やかな紫から熟すにつれて黄色になり、最後は橙色に変化するととてもユニークなものです。

本種は花壇や鉢物用に開発された矮性品種で、その草姿は分枝性にすぐれ、こんもりとボール状に生育します。それぞれの枝の先に表情豊かな色彩の実をたくさんつけることで、漆黒の葉との強いコントラストを生み出し、一株ですばらしい存在感を放ちます。

もともと高温性の植物で出荷期は初

夏から秋が主体となります。高温期の店頭では、花を觀賞する草花は花が傷みやすいうえ、春秋のハイシーズンに比べると商品の流動性も鈍りがちです。その点、觀賞用トウガラシは暑さに強く、果実なので店もちのよい商材として重宝されます。市場流通する、果実が色づいてからの生育ステージでは株のサイズも変化が少ない植物なので、ローメンテナンスで觀賞期間が長いことも市場人気の理由です。一方で「花がない」ためか、ほかの草花が多く出回る時期には、花壇や寄せ植えなどで脇役の立場に甘んじてしまいがちでもあります。しかしながら、この「オニキスマジックオレンジ」は他の草花に類似するものがない色の取り合わせから、従来の觀賞用トウガラシのイメージとは異なる、個性的で店頭でも目を引く商材となるでしょう。



●→●→●と、果実の色変化が楽しめる。



こんもりと形よくまとまる株姿。写真は18cm鉢で栽培。

栽培のポイント

播種

発芽適温は25℃と高めです。温度が不十分だと発芽不良を招きますので、温度管理には注意してください。初夏の出荷では気温の低い時期の播種になるため、温床マットとビニールトンネルなどを組み合わせるなど育苗場所の温度確保に努めます。育苗は288穴

サイズ程度のセルトレイを使用し1粒

まきにします。育苗用土には「タキイ たねまき培土」のような清潔で罹病の心配がなく、排水性のよいものを使用します。覆土はバーミキュライトなどでタネの2〜3倍の厚さを目安に行います。播種後7〜10日ほどで発芽します。育苗期間は4〜5週間ほどで、本葉が4枚ほど展開したらポット上げします。育苗期間中は水切れを起こさないよう灌水管理を行い、特に高温期の育苗で本葉の展開後は水の要求量が多くなるため、しおれさせないように注意してください。水切れや肥料切れによって苗を老化させてしまうと、ポット上げ後の株張りが著しく悪くなりますので、健苗の適期ポット上げを心掛けます。

ポット上げ

ポット上げは9〜12cmポットが一般

的です。ただし、「オニキスマジックオレンジ」は大きめの鉢に植えても、鉢サイズに応じて株張りも大きくなる特性があります。15〜18cmといった大鉢作りも豪華で見応えがありますので、店頭映えする商材を少量生産する場合にはおすすめします。用土は清潔で排水性のよいものを使用します。果実を觀賞する植物であるため、元肥は他の草花よりリン酸とカリをやや多めに施用してください。

栽培管理

ポット上げ後に苗が活着し、株の直径がポットの直径程度に生育したら、風通しをよくするために株間を広げます。日照不足や風通しが悪いと軟弱徒長につながり、葉色が緑っぽくなるほか、花が咲いても着果が悪くなります。ピンチしなくても分枝し、なおかつコンパクトにまとまる性質をもっているため、基本的に矮化剤は必要ありません。

矮性で分枝性のよい本種は、株に対して一度につく果実の数が多く、果実の肥大する時期に急な肥料切れを起こしやすいようになるため、花が咲き着果が始まるタイミングで追肥を行います。置肥の追加のほか、即効性の液肥の使用が効果的です。緑葉の品種に比べ肥料管理の目安となる葉色がわかりにくいので注意します。



「オニクスマジックオレンジ」と「オニクスレッド」を使用した寄せ植え。

病害は風通しや排水に気を配った清潔な栽培環境では発生がなくなるものの、苗立枯病やうどんこ病には注意します。虫害はアブラムシ、スリップス、ハダニが発生することがありますので予防と登録農薬での早期防除に努めます。ただし、一部の農薬は散布後に葉が白く汚れ、観賞価値を下げることがあるので、あらかじめ少量を使用し問題がないことを確かめてから散布します。株元への粒剤施用は葉の汚れの心配がなくおすすめです。

病害虫
観賞用トウガラシは通常、果実が登熟し色づいたら出荷期となります。「オニクスマジックオレンジ」もその例にもれませんが、本種はブラックリフの葉物としても観賞価値があり、登熟前でも果実の色が鮮やかな紫色であることから、緑葉の品種に比べて早期の出荷も可能です。その際は専用のカラーラベルの利用も販売促進に効果的です。

作型例

● 6～7月上旬出荷

2月中旬～3月播種が目安です。トウガラシにとってはまだ寒い時期の播種・育苗になりますので、温度管理に注意します。ポット上げ直後も活着がスムーズにいくよう保温に努めます。日照も十分確保して栽培してください。適宜株間を広げ風通しをよくし、気温も上昇してくる開花から着果の時期は特に蒸れに注意します。

● 7月中旬～8月出荷

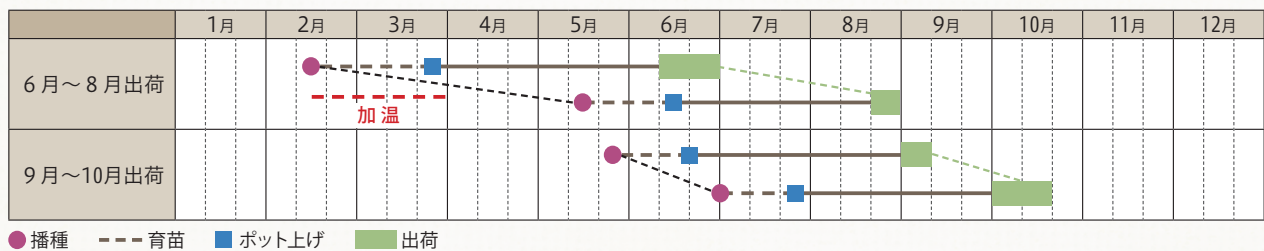
4～5月播種が目安です。必ずしも需要の多い時期ではありませんが、無加温で育苗できる作りやすい時期になります。出荷期が盛暑期になるため栽培後半の水切れ、葉焼けなどに注意します。

● 9月出荷

5月下旬～6月播種が目安です。高温期の栽培は播種から最短で100日程度で果実の着色が始まります。暑さに強いトウガラシですが、盛暑期の栽培になるため水切れや葉焼け、蒸れによる徒長に十分注意します。風通しをよくし、強すぎる日差しには遮光資材を利用します。

● 10月出荷

ハロウィンカラーの本種は10月の出荷は挑戦していただきたい作型ではありますが、盛暑期の育苗に加え、出荷時期が下降気温下で果実の登熟には低い気温になるため、適期出荷がやや難しい時期となります。6月下旬～7月初旬の播種が目安ではあるものの秋口の気温推移予測などに応じて播種日を調整、加えて生育後半の温度管理で果実の登熟を調節します。



栽培Q&A

Q. 果実は食べられますか？

A. 毒性があるわけではありませんが、食用には適しません。他のトウガラシ同様に強い辛み成分「カプサイシン」を果実に含まします。果汁に触れること、特に目には絶対入らないように気をつけ、小さなお子さまの誤飲には十分注意してください。

「オニクスレッド」との違い

「オニクスレッド」はユニークな葉の色と株形、ガーデンパフォーマンズのよさなどが評価され、2018年にAAS（オール・アメリカ・セレクションズ）に入賞しました。「オニクスマジックオレンジ」は、その追加色として開発されました。株形や強健性は「オニクスレッド」同様であるものの、葉のつき方が茎に対してやや横向きになったことで、より果実が見えやすく、果実そのもの一回り大きくなり、より観賞価値がアップしています。

果実の色の变化比較

「オニクスレッド」= ● → ● → ● 「オニクスマジックオレンジ」= ● → ● → ●

